

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

学校名(京都市立山階小学校)

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価		学校関係者評価		
各項目にねらいを定めた取組の計画・実施						評価日 平成28年2月18日		評価日 平成28年2月25日		
取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						評価者・組織 学校評価委員会		評価者(いずれかに○) 学校運営協議会 学校評議員		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策	
1	確かな学力	意欲をもって主体的に学び、考えを伝え合う力の育成	生活科・総合的な学習と各教科・道徳との関連を図った授業研究	人の話をよく聞いて自分の考えを表現している	⇒	思考ツールを活用した話し合い活動が充実しつつある。伝え合い深め合うことに一定の成果がみられる。一方で話し合いのグループや人数の変化に対して自分の考えを熟考して表現することに課題がある。家庭学習についても個人差が見られる。	どんな場面でのどのような思考ルーツが効果的であるかの実践・検証を積み重ね、方法のみにとらわれない学習展開を工夫していく。 家庭学習の交流によって成果がみられつつあるので、個々だけでなく学年の系統性などについても研究に組み込んでいく。	⇒	子どもたちは生活科や総合的な学習を中心に、よく図書室に足を運び、調べ学習をしている。 地域を生かした学習をこれからも充実させていってほしい。	
		読書の習慣化	・朝読書の実施・読書週間の内容充実・保護者ボランティアとの連携	進んで読書をしていますか						低学年90%以上、高学年は72%に対し保護者は52%
		家庭学習の習慣化	自主学習(学びプロジェクト)の充実	家で～分くらい勉強している。(12年30分3年45分、4年60分5年75分6年90分)		低学年81%、高学年は64%できていると回答、1回目より上昇				
		2	豊かな心	自尊感情・自己有用感の高まり	自分や友だちの成長をふり返る心のアンケートや人権学習の充実	自分はやればできると思うわたしにはよいところがある 楽しい学校生活	⇒	学校での取り組みを積極的に発信することにより子どもががんばりを地域や家庭で認めてもらえている。 規範意識については正しいことをしている児童は上昇しているが、そう思わない児童もいるということを考えていかなければならない。	⇒	登校では登校班のリーダーが手本となって挨拶できる班が増えてきているので、高学年がぜひ率先して取り組んでほしい。下校時や放課後は引き続きとび出しや自転車の乗り方などに気をつけて安全にすごしてほしい。
望ましい言葉づかいの実践・規範意識の向上	感想語彙をもちいた文づくり話づくりの取組 クラスマネジメント			時と場を考え、正しい行動をしている	手学年は99%そう思う・大体そう思う。高学年は95%で上昇 低学年4%高学年13%があまりそう思わない そう思わない					
		あたたかな人間関係をつなぐあいさつ	児童会とPTAと連携したあいさつ運動やエコキャンプの取組	いつもあかるくにつこりあいさつしている はたらきかけている		全校平均86%ができていると回答し、1回目より5%ほど上昇				
		3	健やかな体	運動・体力の向上	・遊びやスポーツを通した運動の習慣化 ・マラソンの取組	・外で元気に遊んでいる ・たてわりや週1の外遊び時間の設定	⇒	今年度から週1回ハッピータイムとして昼休みの時間を延長したことで、外遊びの活動が充実した。 生活点検では個人差がどうしてもある。	⇒	昔のように放課後の遊びとして場所が限られていて思い切り運動できないこともあるので大いに学校で外遊びをしてほしい。早寝は家庭の働きかけが一番。
生活習慣の確立	・けんこうの日の取組 ・生活点検表の実施			・早寝早起きをしている ・家の仕事を進んでいる	低学年94%高学年85%と大きく向上している 低学年20%高学年31%があまりそう思わない・そう思わないと回答					
4	独自の取組	安全教育の推進	・PTA・地域と連携した親子安全教室や自転車教室の取り組み	・下校や自転車の乗り方など安全に注意し交通ルールを守っている	⇒	年々自転車教室の参加率とともに意識も高まりつつあるが、児童自身は危険な体験をしていないと自分は正しくルールを守っていると思いがちである。継続して取り組む必要がある。 小小交流では、中学校生徒とともに合同作品作りに取り組めた。	自転車教室は年に1回であるが、取り組みをひろめて児童自身から安全について発信できるように委員会や児童会での取組を工夫する。 中学校ブロックとしての新たな取り組みを企画していく。 ホームページは、どの学年も定期的に更新していくようにする。	⇒	これまでPTA・地域と別々に行っていた自転車教室を連携して取り組むことで全体で声をかけあって安全に気をつける姿勢ができてきているのはいいこと。 小中の合同作品はいろいろなところで取り上げられて大変よかった。今後も連携を大切にしてほしい。	
		情報発信の充実	・学年だよりやホームページでの積極的な情報発信と細かな更新	・学校だよりの内容を工夫ホームページを定期的に更新するなど情報活動につとめる						90%近くの保護者がそう思う・大体そう思うと回答
		地域との連携や小中一貫教育の推進	・生活科・総合的な学習などのゲストティーチャー全学年実施 ・小中コンチネンタルプラン(共同作品作成)実施	・単元構想とゲストティーチャーの年間計画作成 ・小中授業交流会や小小交流会の実施						コンチネンタルプランの効果がみられ、より多くの教員が連携をとることができている

4 総括・次年度の課題

- ・学校運営協議会では昨年度の課題から、話し合いのテーマやもち方を工夫して評価につなげていくことができた。大きなテーマとなった「世代をこえたかわりあい」については今後も話し合いを重ねていけるように工夫したい。
- ・生活科・総合的な学習の時間を中心に、「探究」「協働」的な学びのスタイルを今後も研究し、学力との関連で伸ばしていけるよう、単元の開発や授業スタイルの改善を図っていく。
- ・中学校ブロックの連携した取り組みとして、学力マネジメントシートをもとにさらに具体的な取組をすすめていくようにする。
- ・アンケート項目については学校目標や他のアンケートとの関連を図り、修正・更新していくようにする。